

平成12年7月12日

各 位

東京都結核・感染症発生動向調査
企画委員会会長

東京都月報

6 月 分

保 健 所 別 累 計 表
年 齢 階 級 別 累 計 表
感染症発生動向調査年次比較折れ線グラフ

コメント(東京都) 6月分

梅毒、性器クラミジア感染症、尖形コンジロームの報告が増加している。その他の性感染症については大きな動きはない。

調査票通信(各保健所からのコメント)

今月はありません。

事務局:東京都立衛生研究所疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

S T I 保健所別累計表 (6 月)

男								
保健所名	定点数	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖圭 コンジローム	淋病様疾患	総計
中央	1			5	3			8
日本橋	1			3			1	4
小石川	1							
向島	1			3	2	3	2	10
城東	1			2			1	3
深川	1			18	9	6	12	45
渋谷区	4			7	1	2	12	22
池袋	3		3	20	4	4	5	36
荒川	1							
足立	1			2		3	1	6
台東	5				1			1
大田区	3				2			2
北区	1			1				1
板橋区	2			9	4		3	16
みなと	1			7	7	4	8	26
中野区	1			7	2			9
新宿区	5			44	6	12	19	81
品川区	1							
八王子	3							
町田	1							
多摩立川	2		2	1			12	15
三鷹武蔵野	1	1	3	9	5	5	6	29
総計	41	1	8	138	46	39	82	314
定点当り		0.02	0.20	3.37	1.12	0.95	2.00	7.66

女								
保健所名	定点数	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖圭 コンジローム	淋病様疾患	総計
中央	1			2	1			3
日本橋	1				1			1
小石川	1							
向島	1			1	1			2
城東	1	1		7			1	9
深川	1				2	1	1	4
渋谷区	4			1				1
池袋	3	4	1	10	3	3	1	22
荒川	1							
足立	1							
台東	5	16	1	58	20	2	2	99
大田区	3			2				2
北区	1							
板橋区	2							
みなと	1				2			2
中野区	1							
新宿区	5	1		23	5	6	6	41
品川区	1							
八王子	3			13		3		16
町田	1			1	1			2
多摩立川	2		1	5	3		2	11
三鷹武蔵野	1		1	3	2	1		7
総計	41	22	4	126	41	16	13	222
定点当り		0.54	0.10	3.07	1.00	0.39	0.32	5.41

STI保健所別定点当り累計表（6月）

男							
保健所名	定点数	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	大腸 コンジロー ム	淋病様疾患
中央	1			5.00	3.00		
日本橋	1			3.00			1.00
小石川	1						
向島	1			3.00	2.00	3.00	2.00
城東	1			2.00			1.00
深川	1			18.00	9.00	6.00	12.00
渋谷区	4			1.75	0.25	0.50	3.00
池袋	3		1.00	6.67	1.33	1.33	1.67
荒川	1						
足立	1			2.00		3.00	1.00
台東	5				0.20		
大田区	3				0.67		
北区	1			1.00			
板橋区	2			4.50	2.00		1.50
みなと	1			7.00	7.00	4.00	8.00
中野区	1			7.00	2.00		
新宿区	5			8.80	1.20	2.40	3.80
品川区	1						
八王子	3						
町田	1						
多摩立川	2		1.00	0.50			6.00
三鷹武蔵野	1	1.00	3.00	9.00	5.00	5.00	6.00

女							
保健所名	定点数	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	大腸 コンジロー ム	淋病様疾患
中央	1			2.00	1.00		
日本橋	1				1.00		
小石川	1						
向島	1			1.00	1.00		
城東	1	1.00		7.00			1.00
深川	1				2.00	1.00	1.00
渋谷区	4			0.25			
池袋	3	1.33	0.33	3.33	1.00	1.00	0.33
荒川	1						
足立	1						
台東	5	3.20	0.20	11.60	4.00	0.40	0.40
大田区	3			0.67			
北区	1						
板橋区	2						
みなと	1				2.00		
中野区	1						
新宿区	5	0.20		4.60	1.00	1.20	1.20
品川区	1						
八王子	3			4.33		1.00	
町田	1			1.00	1.00		
多摩立川	2		0.50	2.50	1.50		1.00
三鷹武蔵野	1		1.00	3.00	2.00	1.00	

S T I 年齢階級別累計表（6月）

男						
	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖圭 コンジローム	淋病様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						1
15～19歳			10	2	5	3
20～24歳		1	29	5	8	20
25～29歳	1	1	29	8	6	21
30～34歳		1	28	9	7	20
35～39歳			19	10	4	6
40～44歳		2	8	5	4	6
45～49歳			3	2	1	2
50～54歳		2	9	3	2	2
55～59歳					2	
60～64歳			1			1
65～69歳			1			
70～歳		1	1	2		
合計	1	8	138	46	39	82
先月数	1	5	113	37	28	89
増減数	0	3	25	9	11	-7

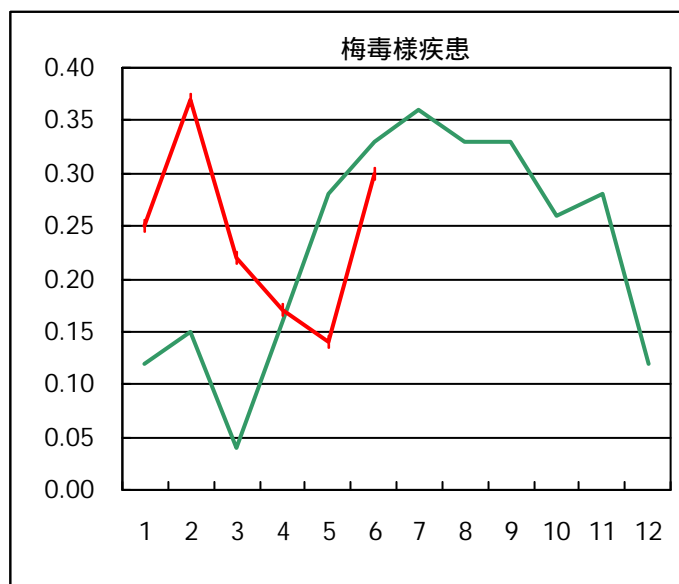
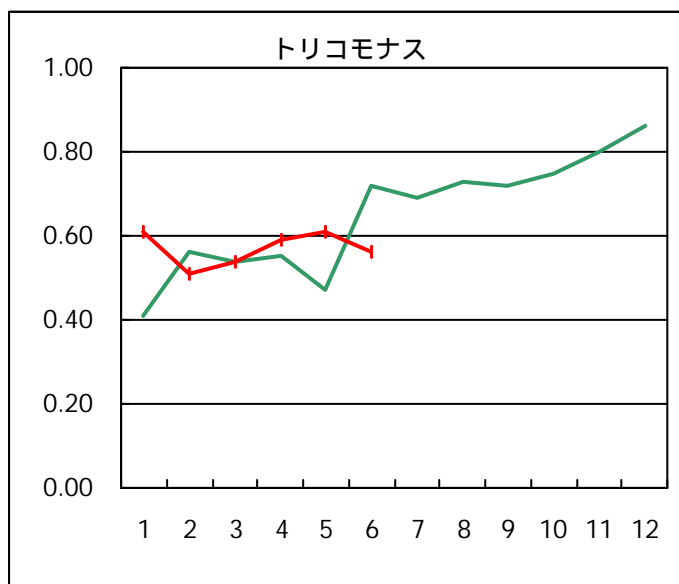
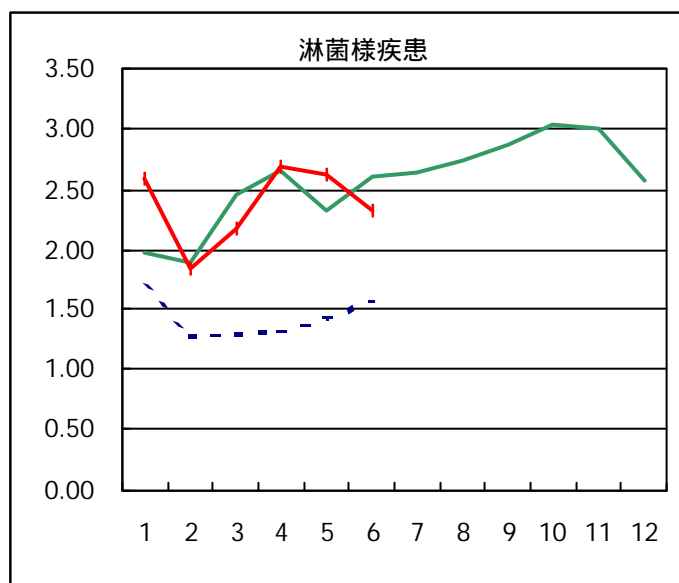
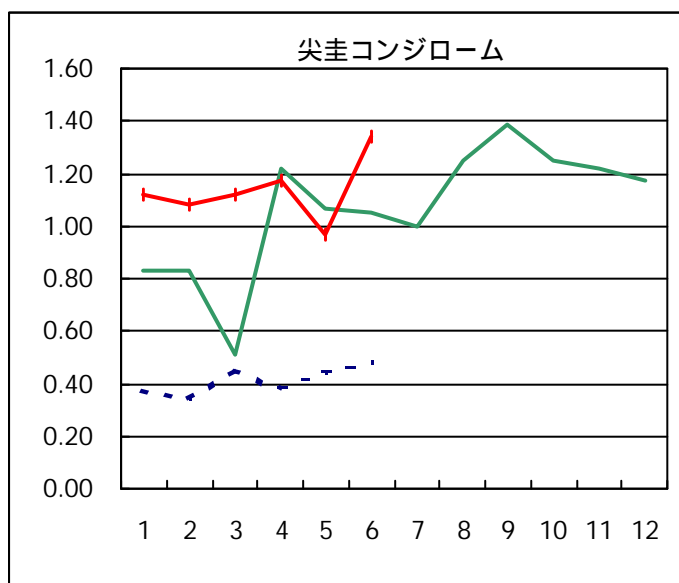
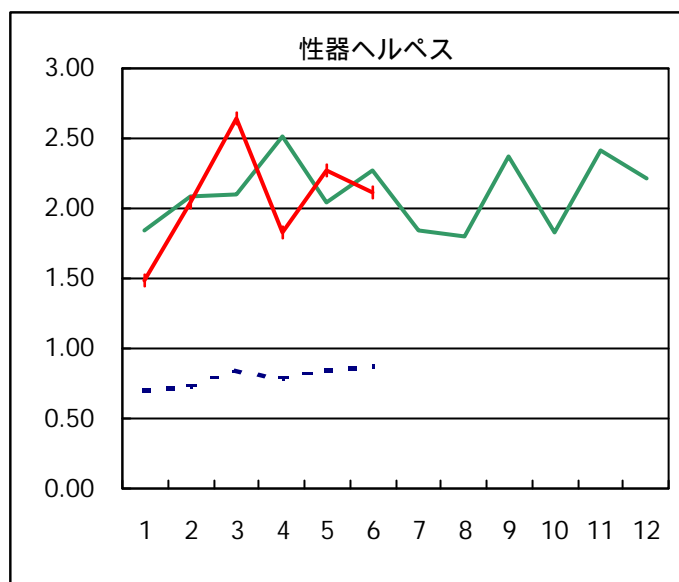
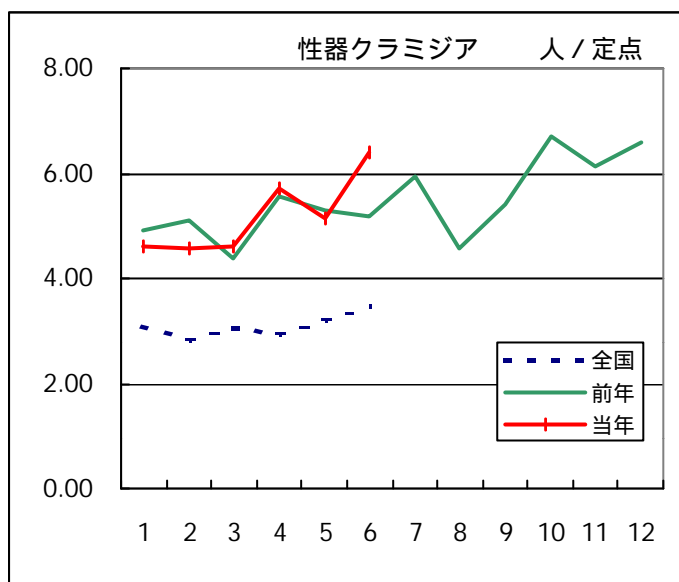
女						
	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖圭 コンジローム	淋病様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	2		13	2	4	
20～24歳	5		44	13	5	4
25～29歳	4	2	34	14	3	3
30～34歳	3		21	5	1	3
35～39歳	4		11	2	2	3
40～44歳	1	1	2	2	1	
45～49歳			1	1		
50～54歳	1	1				
55～59歳				1		
60～64歳	2			1		
65～69歳						
70～歳						
合計	22	4	126	41	16	13
先月数	24	1	99	56	12	19
増減数	-2	3	27	-15	4	-6

2次医療圏別累計表（平成12年6月） 総計 患者報告数

	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖圭 コンジローム	淋病様疾患	総計
区中央部	16	1	75	35	6	11	144
区南部			2	2			4
区西南部			8	1	2	12	23
区西部	1		74	13	18	25	131
区西北部	4	4	40	11	7	9	75
区東北部			2		3	1	6
区東部	1		31	14	10	17	73
西多摩							
南多摩			14	1	3		18
北多摩西部		3	6	3		14	26
北多摩南部	1	4	12	7	6	6	36
北多摩北部							
島しょ							
計	23	12	264	87	55	95	536

2次医療圏別累計表（平成12年6月） 総計 定点当たり発生数

	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖圭 コンジローム	淋病様疾患	定点数
区中央部	1.78	0.11	8.33	3.89	0.67	1.22	9
区南部			0.50	0.50			4
区西南部			2.00	0.25	0.50	3.00	4
区西部	0.17		12.33	2.17	3.00	4.17	6
区西北部	0.67	0.67	6.67	1.83	1.17	1.50	6
区東北部			1.00		1.50	0.50	2
区東部	0.33		10.33	4.67	3.33	5.67	3
西多摩							0
南多摩			3.50	0.25	0.75		4
北多摩西部		1.50	3.00	1.50		7.00	2
北多摩南部	1.00	4.00	12.00	7.00	6.00	6.00	1
北多摩北部							0
島しょ							0
計	0.56	0.29	6.44	2.12	1.34	2.32	41



《感染症豆知識》

腸管出血性大腸菌感染症

東京都医師会感染症予防検討委員会

Veroto毒素(VT)を産生する腸管出血性大腸菌(EHEC)による感染症は、1996年8月に指定伝染病、1999年4月からは感染症新法の3類感染症となり、患者及び無症状病原体保有者を診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出る義務がある。患者の症状は腹痛、下痢、血便が一般的であるが、溶血性尿毒症症候群、脳症などにより死亡することもある。診断は便から菌を分離・同定し、VT産生性またはVT遺伝子を確認もしくは便中のVTを検出する。擬似症の適用はない。

患者は低年齢の小児が中心で、新法施行後1999年4月から12月までの届け出患者のうち19歳以下(1,636人)では75%が有症者であったのに対し、20歳以上(1,243人)では55%が無症状者であった。

一方、地方衛生研究所からのEHEC検出報告は、1991～1995年は毎年100前後であったが、1996年3,021と激増、1997年2,020、1998年2,053、1999年1,840で、毎夏増加が繰り返されている。EHECの代表的な血清型であるO157:H7は、1991～1995年にはEHEC全体の83%であったが、1996年76%、1997年67%、1998年64%、1999年55%とその割合が減少している。O157以外の血清型では、O26:H11、O26:H-、O111:H-などの検出が多く、その他の血清型の動向も要注意である。

感染は菌に汚染された食品・水の摂取によって起こるが、糞口感染によって家族などへの二次感染が起こる。手洗いと食品の十分な加熱調理が予防の基本である。病原診断によって散発患者の発見に努め、二次感染防止のための指導を行う。

文責：山下和予